
一年前の君へ

有吉 正春

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一年前の君へ

【Nコード】

N3177B

【作者名】

有吉 正春

【あらすじ】

一年前、大失恋で精神的にボロボロだった主人公「遊馬」彼が一年間で立ち直り新たな幸せを掴むまでの「誰にでも起こせるかもしれない」小さな奇跡のお話です

前略

一年前の僕へ

今君は凄くヘコンでいると思う、何もかも辞めてしまいたい…もしかしたら死んでしまいたいとか考えてないかな？

でも一年後の君は最高に幸せな毎日を送っているよ、保証するよ、何故なら僕は一年後の君なんだから、大切なのは…

「行動すること」

なんだよ

1 最悪のクリスマス

20歳の12月24日

僕はこの日を忘れる事はないだろう、良い意味ではなくて悪い意味でちよつと想像して見てよ、好きな娘が自分の親友と付き合う事になったとして、その親友は自分と同じアパート、もちろん自分に彼女がいる筈もなくコンビニに買い物に行くとときアパートの階段で手を繋いだ二人とすれちがったりもする

そんな状況が半年続いたらどんな人間でもかなりキツいんじゃないかな？オマケに今日はクリスマスイブ…

その日僕は夕飯を作る気もせずいつもの近所のコンビニに飯を買いに行つた

コンビニもクリスマスムード一色店員もサンタの帽子なんか被つちやったりしてる

買い物済ましてレジに向かういつものお姉さんが軽く笑顔で会釈をしてくれた胸のネームプレートには

「小野」

と書かれている

ここ半年の間学校やバイトそして失恋の痛みを癒してくれた唯一の心のオアシスだ

心のオアシスって言っても特別仲が良いとかアドレス聞いたとかじゃない

笑顔を見るだけで

「頑張ろう」

って気持ちにさせてくれる…

それだけでちよつと幸せになれる僕はつくづく安い男なんだな…って思う

家に帰る途中で同じアパートに住んでる親友

「達矢」

と会った話を聞くと今から彼女の

「美咲」

を迎えに行くらしい

「三人で飯でも食べるか？」

と冗談を言われたがちよつと泣きそうになった

僕の心の内を知っていたら多分こんな事は冗談でも言わないだろうに

「イブの夜に邪魔したくねーよ」

とだけ言って達矢と別れた

「イブの夜に独りでカップ麺か」

呟いた後凄く自分が惨めに思えた

2 切なさの始まり

僕の事を話して無かったね僕の名前は

「山之内遊馬」

20歳の大学生で勉強もスポーツもルックスもごく平凡、恋愛経験も人並み

多分皆の周りにも一人はいるタイプと思う

で、その僕が最近悩んでいる事と言うと…好きな娘が自分の親友と付き合う様になったって事

その女の子の名前は

「浜田美咲」

僕の所属しているテニスサークルの新入生で一目みた瞬間に好きになった

夏が終わるまでには告白したいって思ってたんだけど結局告白する事にはならなかった

僕には大学に入って親友とも言える存在が出来た

「広沢達矢」

良い言い方をすると健全な青年、悪い様に言うとも真面目すぎる堅物なんていうか決まり事とか法律にちよつと厳しい

でも本当にいいヤツだ美咲がサークルに入って数ヶ月僕は悩んでいた

「いつ告白するべきか」

その事ばかり考えていた

そんなある日の事珍しく達矢から俺を誘ってきた

酒と煙草が大嫌いなヤツから飲みに誘ってくるのは本当に珍しい事で少し驚いた

いつもの居酒屋に着き二人ともちよつと酔いが回ってきたときヤツは本題を口にした

「俺…浜田の事好きなんだ…今まで恋愛なんてした事ないのに、どうしたらいいと思う？」

完全に不意打ちだった

あの真面目超人の達矢が恋愛!?

しかも相手は美咲…

一瞬世界が真っ白になった

「なあ… どうしたらいい? お前の方がそんな事には詳しいだろ?」

どうしよう

どうやら僕の親友は僕と好きな人が被っちゃったみたいです

「と、とにかく二人になる機会をふやしたらいいんじゃない? で仲良くなったら二人で遊びに誘うとかさ…」

「そうだよな、実は来週の日曜に映画に誘ってるんだ、バイトが休みだったら大丈夫だから夜にメールするって言ってたんだけど」

その時ヤツの携帯が鳴った最近流行ってるJ・POPの着メロ、俺的にはヤツにはもう少し大人っぽい着メロにして欲しい…

とか現実から逃げ出そうとしてる俺に達矢は満面の笑みで携帯を見せてきた

液晶画面には

「日曜OKですよ」(< ω >)

と表示されていた

「…良かったじゃん、ちなみに何見に行くの?」

「『戦場のララバイ』ってやってるだろ? あれを見に行こうと思ってる」

「他のにしておけ…」

このアフオは初デートで3時間半もあるのドキュメンタリー映画を見せてなにがしたいんだ?

「どうしてだ? 面白そうじゃないか」

「初デートでそんなもの見てみる、映画館でた後で会話がなくなるぞ」

「…確かに、でもチャラついて中身の無い映画は好きじゃない」

「じゃあとりあえずその着メロ変えろ」

と言いたかったけど疲れそうなので辞めておいた

家に帰りつくどとつと疲れが押し寄せてきた

達矢とはゼミもサークルも一緒更と同じアパート

ヘラヘラしてる俺とクソ真面目な達矢

対照的だけど不思議とウマが合う相手だった

寝る前の一服をすい終わり布団に入ろうとすると携帯にメールが届いた

美咲からだった

「夜遅くにすいませんm(_____)m日曜日に広沢先輩と映画に行く事になったんですけど広沢先輩ってどんな女の子がタイプなんですかね(・ω・)ノ山之内先輩なら広沢先輩の好み分かって思ってます…」

あらま…

この娘さんも堅物の事を好きなら両思いじゃないですか…

「達矢も美咲ちゃんの事気になってるみたい(ω、;)だから普段通りでいいんじゃない?」

とだけ返信しておいた

「何でよりによってあの二人が両思いになるんだよ…」

親友に彼女が出来て嫌な気がする

そんな自分が凄く醜くて嫌なヤツに思えて気が付くと僕は泣いていた

そして達矢と美咲はそのデートをきっかけに付き合う事になった

告白はやはり達矢からだっただけらしい

これ以上の詳しい事は僕も知らないし知りたくもない

でもね今だから言える事だけどその時期僕は毎日みたいに夜になると独りで泣いていたんだ

これが僕の絶望の一年間の始まり

中々酷い話じゃないかな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3177b/>

一年前の君へ

2010年10月15日23時30分発行